【附属機関名称】会議概要

会議名	令和7年度 第1回はつらつ高齢者部会		
事務局	福祉部高齢者地域包括ケア推進課		
開催年月日	令和7年7月25日(金)		
開催時間	午前10時00分 ~ 正午		
開催場所	足立区役所 1203会議室		
出席者	酒井 雅男 部会長	賀川 幸英 委員	佐藤 浩史 委員
	廣島 高志 委員	小浦 梓 委員	山ノ内 聖一 委員
	内山 清 委員	堀 崇樹 委員	半貫 陽子 室長
	神家満 麦 係長	千ヶ崎 純子 係長	佃 美幸 係長
欠席者	山中 崇 副部会長		
会議次第	別紙のとおり		
資 料	 ① 次第 ② 委員名簿 ③ 【協議事項1】「はつらつ教室」の再構築に向けた検討について ④ 【協議事項2】「みんなで元気アップ教室」の再構築に向けた検討について ⑤ 【報告事項1】「あだち脳活ラボ」の利用状況および新たな取組について ⑥ 【報告事項2】令和7年度「高齢者栄養施策推進事業」の取組について ⑦ 【報告事項3】生活支援体制整備事業の取組状況について 		
その他			

○富田 それでは、定刻でございますので、ただいまから令和7年度足立区地域包括ケアシステム推進会議第1回はつらつ高齢者部会を開催いたします。

本日はお忙しい中ご参加いただきましてまして、誠にありがとうございます。 本日の司会は、高齢者地域包括ケア推進 課はつらつ高齢者支援係の富田が担当させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

次に、資料の確認をさせていただきます。まず初めに、「次第 令和7年度足立 区地域包括ケアシステム推進会議第1回 はつらつ高齢者部会」になります。次に、

「はつらつ高齢者部会委員名簿」になります。次に、協議事項1「『はつらつ教室』の再構築に向けた検討について」になります。次に、協議事項2「『みんなで元気アップ教室』の再構築に向けた検討に行いて」になります。次に、報告事項1「『あだち脳活ラボ』の利用状況および、報告事項2「令和7年度『高齢者栄養施策推進事業』の取組について」になります。次に、報告事項3「生活支援体制整備事業の取組について」になります。次に、報書をの資料になります。最後にカラー刷りのリーフレットです。「65歳が始めどき!健康寿命をのばす16のすすめ」になります。

不足等がございましたら事務局にお声 がけください。

この会議は、足立区地域包括ケアシステム推進会議はつらつ高齢者部会設置要綱第6条により、委員の過半数の出席により成立いたします。現在、過半数に達しており、この会議が成立いたしますことをご報告いたします。

皆様からの活発なご意見、ご質問を頂

くため、迅速な会議進行にご協力を頂き ますようよろしくお願いいたします。

なお、この会議の会議録は公開することとなっております。記録の関係上、ご 発言の前にはお名前をお願いいたします。

それでは、初めに酒井部会長から開会 のご挨拶をお願いいたします。

○酒井部会長 皆様、おはようございます。まだ8月の声を聞いていないのですけれども、非常に真夏と言えるような朝の会議になりました。冷房は効いているのですけれども、どこかタイミングで調整していただけると思います。

先ほどお話しがありましたとおり、本 日は協議事項、報告事項、非常に多く用 意されております。限られた時間ですけ れども、第1回のはつらつ高齢者部会、 活発なご意見を頂きたいと思います。

本日は、よろしくお願いします。 〇富田 酒井部会長、ありがとうござい ました。

それでは、議事に入らせていただきます。これからの議事進行につきましては、酒井部会長、よろしくお願いいたします。 ○酒井部会長 ありがとうございます。 それでは、議事を進行してまいりたいと 思います。

次第に従いまして進めてまいります。 次第2の「協議事項」としまして、「『は つらつ教室』の再構築に向けた検討につ いて」、まず事務局からご報告をお願い したいと思います。

○神家満係長 皆様、改めましておはようございます。高齢者地域包括ケア推進 課はつらつ高齢者支援係長の神家満と申 します。よろしくお願いいします。

最初に、昨年度の介護予防係が今年度 に入りまして、介護予防事業、認知症予 防事業をより一体的に推進するという名の下、組織を再編し、このはつらつ高齢者支援係というものに変わりました。このはつらつ部会の事務局をやらせていただいておりますので、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

では、私から協議事項1、資料で言いますと1ページ目を御覧ください。こちらについて説明をさせていただきます。なお、この後につきましては着座にて説明をさせていただきますので、よろしくお願いします。

では、「はつらつ教室」の再構築に向けた検討ということで、お配りした資料のリーフレットの11ページ目を御覧ください。こちらになります。11ページ目です。左側に「はつらつ教室」と書かれております。

こちらを御覧いただきながら、協議事項1、1ページ目の資料のご説明に入らせていただきます。

まず、この「はつらつ教室」についてなのですけれども、項番1「はつらつ教室の概要」といたしましては、まず「事業の目的」、こちらは地域の高齢者が主体的かつ継続的にフレイル予防に取り組めるよう、具体的な知識や方法を学ぶことで、実践への意欲を高め、日々の行動変容を促していくということを、この事業の目的として位置付けております。

(2)「実施概要」につきましては、主にこの事業、室内型とプール型の2種類ございます。室内型につきましては、フレイル予防に必要な運動・栄養・口腔ケアを学ぶ総合講座で、各回完結型。プール型については、水中ウォーキングを中心とした運動講座となっております。

以下、開催数および時間につきまして

は、記載のとおりなので、この場では割 愛させていただきます。

資料、裏面を御覧ください。 2ページ 目です。こちらのはつらつ教室の項番2 「現状」につきましては、まずはこの教 室、運動に対する人気が非常に高く、リ ピーターが多い状況となっております。 先ほどの表の記載のとおりなのですが、 延べ人数の参加者数は多く見えるのです が、実人数でカウントしますと1割に満 たない状況となっております。また、そ ういった状況から、事業の費用対効果、 こちらはまだ十分と言えない状況でござ います。また、会場となっている各施設 でも、類似の運動の教室ですとか、あと はプール施設につきましては、65歳以 上の区民の方であれば既に無料で使える という状況もございます。

項番3「問題分析」のところなのですけれども、まず1つ目が実践の場へのつなぎ方についてです。このはつらつ教室以外の他の事業へのつなぎ方、周知が不十分であったことや、本来実践の場となり得るほかの既存事業、こちらについて参加者のニーズに適していなかった、十分なご案内ができていなかったのではないかと考えております。

2つ目が、事業の周知方法についてです。周知の内容や方法が固定化していたため、既存の参加者には情報が届くのですけれども、それ以外の方について、事業の魅力であったりとか、内容が十分に伝わっていなかったのではないかと我々で考えました。

項番4「課題」といたしましては、本来 の事業目的を実現し、かつ費用対効果を 高めていくためには、もちろん、従来の 実施方法のいい部分は残しつつも、抜本 的な事業形態の見直しも含めて事業を再 考していく必要があると考えております。

また一方で、従来、実践の場としてこの事業に参加していただいていた方のフレイル予防活動を継続する場は必要と考えておりますので、事業の再構築と並行して、こちらの受け皿となる場の確保というところもあわせて考えていきたいなと思っております。

それを踏まえまして、項番 5「方針案」です。まずは、事務局の案といたしましては、室内型の事業形態の見直しです。

現在、住区センターで好評となっている「リハビリのプロと学ぶ筋肉維持講座」、こちらを参考にしつつ、さらにこの講座の要素に、栄養・口腔の学びの要素を加えた拡充版講座として対面形式での実施をつくっていけないかと考えております。

あくまで案なのですけれども、開催頻度といたしましては、年2期(前期・後期)1回ずつ。会場は同じ地域学習センターを予定しております。定員は各会場キャパシティーが変わりますので、25~40名程度。時間といたしましては、現在90分のところを120分程度を想定しております。

既存事業との違いといたしましては、 現在、前期4回、後期4回の多数開催型 なのですけれども、やみくもに開催する のではなく、タイミングを捉えた開催。 例えば、半年に1回という形の単発開催 型に変更したいと考えております。

また、体操プラス座学のカリキュラムから、専門職の方による実演を交えた講 座形式もできないかと考えております。

もちろん(ウ)のところで、講座の中では、このはつらつ教室の後の実践の場の紹介時間もきちんと確保した上で、どう

いった事業があるかというのを丁寧に区 民の方にご説明できるような時間を確保 していきたいと考えております。

また、従来の活動の場を継続する場に つきましては、費用対効果の点から、現 在各施設にて行われている類似事業への 移行も含めて関係所管と調整を進めさせ ていただいておりますので、そちらにつ いても引き続き検討を行っていきたいと 思っております。

はつらつ教室につきましては、前回の部会におきましても、委員の皆様から貴重なご意見を頂いておりまして。我々でも改めてこの事業の目的ですとか、課題をこういう形で整理をさせていただきました。

各関係機関の皆様と一緒に、この地域 包括ケアシステム推進会議のはつらつ部 会、この場を生かして、事業をよりよい ものにブラッシュアップさせていきたい と思っておりますので、ぜひ前向きなご 意見を頂けますと幸いでございます。

どうぞよろしくお願いいたします。

- ○酒井部会長 ありがとうございました。今の報告を受けまして、ご質問等。
- ○千ヶ崎係長 私から補足で。
- ○酒井部会長 途中でしたね。
- ○千ヶ崎係長 住区センターで行っているリハビリのプロから学ぶ筋肉維持講座なのですけれども、昨年からフレイル予防の一環で開始した事業です。今日も山ノ内先生もそうなのですが、あだちPOSネットワークに依頼して、理学療法士、作業療法士が講師になって行っています。

前半は、なぜ運動が大事かという座学になっていまして、後半はあだちPOS ネットワークの皆様に考案いただいたて ぬぐい体操を実際に説明して、皆さんに 体験していただきます。前半は座学、後 半は実演、体験ということで、やってい る事業で、大変好評です。

好評な理由としては、リハビリのプロから学ぶという、そのネーミングもすごく魅力的だったというところと、実演が入る。実際にプロの先生から教えてもあるということで、実は今年度10回子定しているのですが、本当は30か所に調整したということもあるので、このノウルはつらつ教室でも生かせればと思っております。

以上です。

○酒井部会長 今、ご報告頂きまして、 ご質問等あればお願いしたいと思います。 ○山ノ内委員 丁寧にご説明いただきま してありがとうございます。昨年度、今 年度という形で試行的にやらせていただ いたのも多かったので、数を絞らせてさ せていただいたのですけれども。

割とどの講師が行っても同じように説明できる体制みたいなのが少しできと思うたので、来年度ということになると思うのですが、なるべく多くの方にという形を一応考えておりますので、その際でご対ののは具体的な会場数とかがあればで対ので、があればいろいろ対応可能かと思います。そういうことで考えていければと思いよろしくお願いいたします。

○酒井部会長 ほかにいかがでしょうか。 ○山ノ内委員 この場であれかもしれないですけれども。例えば、何十回という 形になったときの、POSネットという のが任意団体なものですから、特に予算 があるとかではないので、逆に東京都の 理学療法士協会というところですと、講師の先生たちの講師料とかそういうところは全部協会で多分賄えると思います。 ですから、そういうことであれば、こちらで来年度の予算立てを組んで、 そこから派遣する場合の講師料というところの、今であればまだ来年度つきそうなので、間に合うかなと思います。

○神家満係長 ありがとうございます。

〇山ノ内委員 そうすれば、数を結構増やしてという形で。今回、前回この数が少なかった。区の予算の中で、ぜひやっていただいて、どうしても数が少なかったのですが。今からであれば、そういう対応も理学療法士協会であれば可能かなと思います。

一応お伝えしておこうかと思いました。 ○神家満係長 ありがとうございます。 ○酒井部会長 よろしいですか。私から の確認なのですけれども、この今、教室 のペーパーを見ているのですが、室内型 とプール型と出ていまして、室内型につ いて令和7年度の実施の進めているもの が、この中央のところにあるものですね。

裏の方針案のところに、室内型の事業 形態の見直しについてとあるのですが、 これは令和8年度以降のものということ でよろしいのですね。

○神家満係長 はい。この方針案は8年 度以降にこの事業形態をこういう形で変 えられないかというところです。

○酒井部会長 大胆な変更になっている のかなと思うのですけれども。これにつ いては、栄養・口腔に関わってくるので、 ご意見あるところかなとは思うのですが、 いかがですか。 ○小浦委員 少し整理させてほしいのですけれども、そうすると、今年度始めた各回完結型の動画を見て体操してみよう、学んでというのは今年度で終了して、8年度は住区センターのリハビリのプロと学ぶと一体化するのですかね。

○神家満係長 いえ、住区センターでやっているリハビリのプロで学ぶ講座につきましては、運動で完結するものになりますので、我々としてはそれをそのまま地域学習センターでもやるという考えはありません。

あくまで、前回の部会でもご意見を積いたとおり、はつらつ教室は運動と栄養と口腔の3本柱で、この教室が構成のできだというご意見を頂きましたの3分野をこの講座の中で学方は変の中で学方はというできたいども。講座の中か、どものですけれども。講座の中かというとはいるがありという形態でやるかというとは、ありまで現在この段階では決まっております。

○小浦委員 そうすると、今、住区センターで好評となっているこの講座は、残しつつ、地域学習センターで新たに組み立てる。

○神家満係長 そうです。住区センター に行かれる層と学習センターを普段から 利用する層はまた違うと考えていますの で。

学習センターをよく利用される層の方にも、住区センターでやられているような講座を行いつつも、全く同じものではなく、差別化を図りたいなと思いますので、口腔・栄養の要素も加えた拡充版の講座として、一つ形がつくれないかなと

思っています。

○小浦委員 データがあるのか分からないのですけれども、今の住区センターの筋肉維持講座は、新規の方の参加率というのはどれぐらいなのでしょうか。

○千ヶ崎係長 去年から始めた教室なので、年に1回なのでリピーターはないのですけれども。去年は、6回で233人なので、1回40名弱ぐらいの方に参加いただいている感じになります。

○神家満係長 ぱく増し栄養講座と対に なるようにやっているのですよね。

○千ヶ崎係長 ぱく増しは年に2回で、 リハビリは全部の住区ではないのですが、 年に1回やって、栄養と運動の両方大事 だよねということをお伝えしている感じ です。

○小浦委員 栄養講座をしていて、いろいろな区の事業に参加する方って、同じ顔ぶれの方が多いみたいなので、栄養士の話もまた同じ話だなという感想が結構多いのです。

栄養も講義形式にしてしまうと、多分、 飽き飽きしてしまうので、私の提案はせっかくこのてぬぐい体操みたいなものを したら、その後みんなでご飯を食べて、 できれば口腔の、口のお掃除の仕方とか も、その場で実践をして帰るみたいな。

結局住区センターに行っても、地域学習センターに行ってもまた栄養の話は同じで、口腔の話も同じなのだとなるよりは、教材を、バランスのいいお食事を目の前にして食べながら、楽しい時間を過ごしながら、いつもよりも食べられるよねみたいな体感をしてもらいながら、学んでもらえるみたいなのはどうかなと思いました。

いつも同じ話みたいなのは、たまに聞

いています。

○神家満係長 電子レンジがあれば、調理実演はできても、施設で食べることができるのかどうか確認が必要なのですけれども。

○小浦委員 配食を適温で衛生的に維持 してというのも、どうやってやるのだみ たいなのは協議が必要かと思うのですけ れども。

○神家満係長 見せるのは多分できると 思うのですけれども、食べさせるのは危 ないかなと。

それなりにちゃんとした設備がある施 設となると、限られてしまうので。

○千ヶ崎係長 食べるとしたら、どこからかお弁当を持ってきて食べるとかになるのだと思うのですけれども。そこで作ったものを食べるというのは、難しいかと思うのですが。

また費用の面で、参加費を取るのかとか、いろいろ課題は出てくるのかなと。 〇小浦委員 ぱく増し栄養講座をしていても、結局大元はいつもの同じような栄養講義をして、実演はするのだけれども、皆さん、実演を見て喜んでくれるけれども。大元の講義は一緒なので、途中退席される方も実際いらっしゃいますし。

○神家満係長 今までの事業を連続開催型にすることで、何度も同じ方が出席される。一方で、ぱく増し栄養講座は1回、1回と単発開催なので、そもそもリピーターという概念がないという、そういう考え方をしております。

住区センターで行う各種事業ですとか、 ぱく増し栄養講座も含めてなのですが、 それは、通いの場であっていいかなと思 うのです。やっぱり学びたいという方が、 何度も何度も通うという。ただ、はつら つ教室は、あくまで入口であって、もっと詳しく知りたい方、もっとやりたい方はここがあります、住区センターで栄養で実演もある、今日の教室よりももっと踏み込んだ内容を学べるのですよというような、そこのつなぎをはつらつ教室で、学習センターでやれたらいいなと思います。

同じ事業をやってしまうと、それは確かにあっちでも聞いた、こっちでも聞いた、何が違うのという話になってしまうのですが。

そこをきちんと我々でご案内というと ころを、ある意味受託している事業者さ ん任せになってしまっていたところもあ るので、そこは丁寧に事業を組み立てた いなと思っています。

- ○小浦委員 よろしくお願いします。
- ○佐藤委員 最後の話にあった、項目ご とに今まで受託していて、私の記憶で、 このはつらつ教室とかは、セントラルで やるやつでしたっけ。
- ○神家満係長 はつらつ教室は各地域学 習センターです。
- ○佐藤委員 セントラルでやっていたの は違うのですか。
- ○神家満係長 元気アップ教室とか、ほかの事業でセントラルさんが受託する事業もあります。
- ○佐藤委員 というふうに、こっちも、 僕もちゃんと理解していないし、その中 で口腔ケアとかがやられていて、何をや られているのかは分からない。区の方に 聞いても分からないというのを、よくな いなというところで、そこを見直すとい うことには、賛成なのですけれども。そ れで、今の話で、ここのはつらつ教室だ と、栄養に至っては、ぱく増し教室、僕は

参加していないので分からないのですけ れども。その内容とはつらつ教室とは、 何がどう違うのかというのは、分からな いし。じゃ、ここで口腔ケアといったと きに、ここで口腔ケアというのを何をす るという話で。このパンフレットで言え ば、16ページ、15番のちゅうりっぷ 体操というところは、口腔機能低下に近 づく部分ではあるのですけれども。細か いこと言うと、このちゅうりっぷ体操と いうのは足立区が言っている体操で、一 般的な体操ではない。それを、区のやり 方として全部口腔ケアこれで行くという 話も決まっていない。というところで、 このちゅうりっぷ体操、そこでやればい いじゃんと言ってみると、こっちは衛生 部でやっているわけですよね。フレイル はここを見ると、高齢者栄養施策推進担 当で、このはつらつ教室はまた違うわけ です。

○神家満係長 そうですね。

○佐藤委員 結局、ほかのいろいろなところが栄養士会なら栄養士会、歯科医師会は来ていないけれども、口腔ケアといっていると、そこをトータルでやらないと、個別に来られても結局同じことをこっちはやっている。実際は参加している人が一緒となってしまうと、意味がない。

項目がいっぱいあるのはすごくいいことなのですけれども。これを見て、この1ページの下の、筋力アップ・食事・口腔ケアと、話はすごい分かるし、そうなのだけれども、じゃそれで、まずは興味のあるものをチェックしてみようといったって、はつらつ教室が何なのか、ふれあいがあれで、とっちらかってしまっているなみたいなのがすごく思うのです。

だから、区民の人も、どこに何をする

ために行けばいいのかというのが、何かはっきりしないのかなと思う。

○神家満係長 そこは、佐藤先生がおっしゃるとおり、この事業ってどこにつながっていくのというところも、ご案内も、今回課題として事業の案内の仕方が不十分だったというところにつながると思うのです。

庁内でも所管が分かれているところは、まさにおっしゃるとおりで、今回、このはつらつ教室、もう1度、組み立て直地域もというときには、もちろんの書をには、もちろんの事業をでは、ないますが、てもらって、この事業に入ってもらって、この事はに入ってもらいますが、何をまず伝えなけないのかというところは、一路というところは、一路に入ったので、動いていますので、かなと思っています。

〇佐藤委員 口腔ケアの話でいうと、歯 科医師会レベルの話だと、衛生部とも、衛生士さんがいるのですければも、歯科衛生士さんがいるのところが、歯科のところがし、をしていうところがし、であれば、じっとこので、であれば、じっところが、でありところが、でありところが、でありところが、でありところがのところがいりところがらを発展して、では対して、らいらいのところから発展して、では対して、では対して、では対して、では対して、では対して、では対して、では対して、ないには対している。

ここで、例えばこの口腔ケアのことを、 歯科医師会に振られても、結局衛生部で やってという話になってしまうので、もしくはこの事業で、今、栄養の話に変わりますけれども、口腔ケアのところだけいえば、口腔とか口の周りのリハビリとかも含めてやるのであれば、その流れのほうが現実的だと思っています。

○神家満係長 ありがとうございます。 先生に言っていただいたとおりで、衛生 部とまず庁内で調整して、ご相談させて いただきます。

○酒井部会長 非常にすばらしいご意見 が出たなと思います。

確かに、このはつらつ教室は、室内型とかるのですけれども、まず、これがスタートいない事業の目的と完あかいけないって、これを多くの回数をやってがはどれたのの回数をやってがいたのの回数をやってがいたのの回数をやかがいた。のはどれたないはないけないと解決しているというものは、縦割りを取りにないがあるというもので、縦割りをでいるをでいる。 で、縦割りを解いる名というないの関わるが、関といるので、縦割りをあるが、関わるので、が見いのでのでので、が見いるので、が見いるので、が得られないと順挫してしまいますので。

ここは工夫して、横断的な体制で、かつ関連の部署と、歯科医師会様とかですね、栄養士会様とも意見交換して、再構築としていっていただきたいなと思います。

はつらつ教室、非常にいいものではあるのですが、目的との間で調整が必要だということで、見直し、再構築をさらに進めていっていただきたいと思います。

- ○神家満係長 ありがとうございます。
- ○酒井部会長 はつらつ教室のこの部分

はいかがですか。次に行ってよろしいで すか。

それでは、次第3に行きたいと思います。「『みんなで元気アップ教室』の再構築に向けた検討について」、事務局からご報告をお願いしたいと思います。

○神家満係長 引き続き、はつらつ高齢 者支援係の神家満よりご説明いたします。

お配りしたパンフレットの9ページと 10ページ目を御覧ください。こちら「みんなで元気アップ教室」の再構築に向けた検討ということで、先ほどのはつらつ教室と少し趣旨は似たような内容になっております。

項番1「みんなで元気アップ教室」の 概要なのですが、2段構成の事業となっ ております。まず1つ目が、みんなで元 気アップ教室。目的はフレイル予防の知 識を学びながらグループワークを通じて 親睦を深め、最終的には、現在のところ 主にウォーキングの自主グループの創出 を目指した教室事業となっております。

もう一つが、元気アップサポーター養成研修という事業でして、こちら当初は地域の生活支援の担い手養成を目指した事業だったのですが、現在としては、グループワークやフレイル予防の基礎講座等を通じて、グループの立ち上げや運営に興味のある方を対象に、グループ活動継続のコツを学んでいただく講座になっております。

開催数ですとか、詳細につきましては、 以下、記載のとおりとなっております。

ページをめくっていただきまして、裏面です。項番2「現状」についてなのですけれども、こちらみんなで元気アップ教室は、募集方法は広報紙と地域包括支援センターによる参加勧誘があるのですが、

現状は、ほとんどが地域包括支援センターによる勧誘の状況となっております。

また、2つ目といたしましては、当時、コロナ禍で始まった事業でして、各事業の中止であったりとか、施設の利用制限、三密を避けた活動の推奨などの理由から、ウォーキングを主としたグループ活動でも当時一定数の参加者はいたのですけれども、こちらも年々減少傾向となっております。

項番3「問題分析」なのですが、みんなで元気アップ教室は、主にウォーキングの自主グループ立ち上げを目的に置いているため、もう既に現状といたしましては、ウォーキングへの関心が低い方、はいろいろ活動が再開されて既に個人でウォーキングに取り組んでいる方にのいては、ウォーキングの自主グループという理由でお誘いすることにあまり魅力が低い事業になっていると、現場から何っております。

また、元気アップサポーター養成研修 につきましても、地域の担い手となるこ とに対する負担感から、参加を控える傾 向にあるという話も伺っております。

そこで、項番4「課題」といたしましては、もちろんウォーキングについては特定の場所や道具を選ばないという利点もありますし、介護予防の視点からの効果もあるのですけれども、ウォーキングに特化しない、とらわれない多様なグループの活動を後押しするようなプログラムに移行していくのが必要なのでないかと考えております。

また、地域の担い手の必要性はもちろんあるのですけれども、過度に住民の方に負担感を強いらないような事業形態、工夫も必要かなと考えております。

そこで、5「方針案」なのですけれども、まずみんなで元気アップ教室のカリキュラムにつきましては、ウォーキングに特化しないカリキュラム、多様なグループ創出を目指した内容に変更を考えていきたいと思っております。

また、2つの事業の一体性や効率性を ふまえて、「元気アップサポーター養成 研修」は「みんなで元気アップ教室」に統 合するというのも一つの案かなと思って おります。生活支援の担い手としての重 要性は学んでいただきたいので、カリキ ュラムの中に残しつつも、それに特化し た講座である必要はないのかなと。また、 別に必要な、求められている講座がある のであれば、そちらに内容を変更すると いうのもありかなと考えておりますので、 ここで方針案を記載させていただきました。

説明は以上です。

○酒井部会長 ありがとうございました。 今の説明を受けまして、ご質問等、よけ ればと思います。

今、説明を受けて思ったのは、確かに サポーター養成研修、講座みたいになる と、参加しただけで何か言われるかと、 お願いしますねと、負荷が大きかったか なと思いますので、カリキュラムの1つ に残せばいいというのは、確かにそうだ なと思いますので、その点に関してはよ ろしいかなとまず思いました。

それから、今のみんなで元気アップ教室の6年度の実績を見ると、実人数というものを見たときとに、先ほどのケースと同じように、効率とかそういったものも考えていかなくちゃいけないのでの変更と思います。

方針案1のところに、多様なグループ

創出を目指した内容に変更するとが、にかった内容に変更するというというではなが、にかったいのない。それはよく分かるの出ながです。というなが、でかったいのではなが、ですったが、でいるのがではないが、でいるのではないが、でいるではないがでいるではないがです。というではないがでいるではないがでいるではないがでいるではないがでいるではないがではないがではないがではないがではないがでであるのではないがではないがでいるではないがではないがです。

○酒井部会長 限らないということですね。

○神家満係長 そうです。

このみんなで元気アップ教室に関して 事業者とも話をしているのですけれども、 やはり一長一短で、ウォーキングという 1つのゴールがあって、お誘いし、それを 前提にカリキュラムをすることでウォー キングの自主グループというところは立 ちやすい。一方で、じゃ自分たちの好き な活動をしましょうと集まると、皆さん、 ベクトルが少しずつずれるので、そこを どう集約していくかというところが、難 易度としてはすごく高くなってくるかな と伺っています。

○酒井部会長 今の補足も受けて。

○堀委員 地域包括支援センターで勧誘を行って、講座参加につなげると、そして自主グループの継続支援を行っていくというところで関わらせていただいておりますので、その観点からお話しさせていただきます。

ウォーキングを始めまして、とてもい

いプログラムだったと思うのですけれど も。高齢者というのは、1年ごとに1つ 年を取るたびに人口は増えていくわけな のですが、現実的には、その方々全でに アプローチできるわけではなくて、さ りウォーキングという言葉が新してくれたス タート時点の状況と、数年たった今で うと、少し飽きが出てくるというか、 あるのかなと思っています。

その中で、どういうグループ、多様な活動につないで卒業していけるような講座になっていかなければいけない、どうすればやっていけるかというところが、知恵の絞りどころなのですが。介護予ですりは、ウォーキングできが、今ずいうりは、そういうが、参加が出ます。とかいりのプロが教えるというないうないうにできるかというないうないうかなと思います。

実際には、みんなで元気アップ教室にしてもはつらつ教室についても、そのを発してもが、どれぐらは動というところが、どれつはなってくると思すので、講座の中で多様な卒業後の活動のというは、現在、既に活動されている通いのあるとに対するといいますがいると、それこそ栄養といいますがいると、それこそ栄養といいますがあらと、そので、そういうところを参考例として、こ案内しつの教室活動を行うというよう

な、そんな取り上げ方ができるといいな のかなとは思っております。

○神家満係長 ありがとうございます。 我々としても、ウォーキングを止めたい ということではなく、ウォーキングだけ から、ウォーキングも1つの選択肢にで きたらいいなと考えていますので、なく すありきでは決してありません。

○内山委員 シルバー人材の内山です。 シルバーの活動の中味でいうと、参考意 見ぐらいにしかならないと思うのですけ れども。シルバー、5地域ありまして、環 七と4号と荒川土手、5つあります。そ の中でエル・ソフィアのある西部のほう なのですけれども。こちらの活動をシル バー全体でもすごくいい活動をしていま して、今のウォーキングで名目でいうと お散歩ウォーキング、お散歩もウォーキ ングも一緒だと思うのですけれども。そ ういうのでやっていまして。何をやるか というと、大体は季節なので、お花がき れいということで、桜の時期には桜のあ るところに行こう。あと、藤がきれいだ と藤があるところとか。これは、足立区 内だけではなくて、藤だったら亀戸に行 くとか、そういうのまでやっているので すけれども。お話は飛鳥山に行くとかあ ります。

先日、そういうのを見習いながら、この地域でやったのですけれども。それは、しょうぶ沼公園、あそこで菖蒲を見に行きましょうとことで、あのときには、しょうぶ沼公園から、あとは綾瀬までのスタンプラリーみたいなのがあって、途中でお会いしたのですけれども。

それで、ウォーキングという意味で。 目的としては、ウォーキングがあって、 そういう季節のお花とか楽しみましょう。 それで終わった後、食事してとかいうことです。その後の口腔はやらないのですけれども、そういうのも含めてやろうかなという形で動いています。

我々の地域では、まだ1回しょうぶ沼でやっただけなのですけれども、トライとして。それを皆さんといろいろ相談させてもらいながら、何かできないかなと今思いました。

あとは、全体の話なのですけれども、 こちらの16の「すすめ」とあるこの表 紙です。2ページ目のこういうのが、シ ルバーでは、半分くらい講習させてもら っています。やっているのですけれども、 それぞれ頼んでいるのです、いろいろな ところに。

区のつながりもあるものですから、その辺はできるのですけれども。先ほどにいるいる意見があったように分かりにつかったようにあったりして。コマーシャの仕方じゃないですけれども、2つかいるもないですがある程度関心を持つで、私はある程度関心を持つで、発目、会にですけれども。その中で、先目をものですがあるだち脳活ラボののように大きないないがないです。「広報でコマーシャンとのようにないないないもあったのです。

かなりそういう意味では、バーッと出ていると、サーッと見てしまって、目立たないような気がしていて。もっともっと目立つように、シルバーなので、文字大きいほうがいいのですけれども。そういう意味で、バッと出ていると「おお、こういのもあるのか」というのが分かるような気がするので、そういう意味でもP

R活動をやっていただければという希望 があります。

以上です。

○神家満係長 ありがとうございます。 PR、引き続きがんばります。

堀委員と話していて、ウォーキングと 何かというのはすごく重要な要素で、みんなで集まってご飯を食べる。その前に お腹を空かせるために、ちょっと遠いと ころからスタートして歩こうかというの は、やっているグループもあると聞いて いますので、そこはぜひ我々も参考にさ せていただきたいなと思います。

ありがとうございます。

○堀委員 シルバー人材センターの仲間 同士でつくる活動に、私たちの仲間になっていただく、自主グループとして。そういうのも、そうするとこちらのほうで自主グループの活動の皆さんに紹介している情報とか、交流の機会みたいなものにも参加していただけることもひょっとした。

○内山委員 ぜひともよろしくお願いします。

○神家満係長 基幹地域包括支援センターなので、引き出しいっぱいありますので

○内山委員 実際に東和でしたけれども、 そこの方に来ていただいて、実際にやら せていただいるというか、お話を聞かさ せてもらいました。ただ、来られた方は 分かるのですけれども、来られない方の ほうがやはり多いので。

○神家満係長 会員さんで当日。

○内山委員 会員といっても、100人 いても5分1来ればいいかなぐらいな。 全部で3, 000人いても、来るとした らどうだろうという感じです。200人 ぐらいしか来ないのです。

○堀委員 要は数だけの問題ではない。 もともと就労とか社会貢献というところ で成り立っている団体でいらっしゃると 思うので、その中のサークルという形で、 数の対象ではなく、ぜひ、こちらもそち らもエネルギー源にさせていただくよう な関係がつくれるといいのかなと思いま した。

○内山委員 実際に地域包括支援センターとか、どこにあるのだろうって、分かっている方はほとんどいないのです。

私、一応、本町が近いので、先日も寄ったのですけれども。そういう活動はしていないというのです、中央本町では。

ですから、ある場所が限られていると思うのですけれども。それがどこかも分からないので、「私、どこ行ったらいいの」みたいな。もうちょっと、自分なりにももう少し調べて、皆さんに配信しようと思っているのですけれども。その辺が「ああ、そうか」と思います。自分は参加しているので分かるのですけれども。ほとんどの人が分かっていないなというか、周知できていないなというのが反省なのです。その辺もよろしくお願いします。

○酒井部会長 ありがとうございます。 今のお話からすると、広報の難しさというのと、あとホウカツからの参加勧誘がメインだという中で、方針案のこの多様なグループ創出を目指す内容に変更した場合に、どうやって集められるのかという点と、実際に来ていただいた方にという点と、実際に来ていただいた方にどうやってつなげていけるのかな、継続していけるのかなという難しさはあるので、そのあたり検討しながら、新しい方針案 の下、進めていければと思いました。

- ○神家満係長 ありがとうございます。
- ○酒井部会長 それでは、課題3に行かせていただきます。報告事項3「『あだち脳活ラボ』の利用状況および新たな取組について」事務局から報告をお願いしたいと思います。

○神家満係長 引き続きまして、はつら つ高齢者支援係神家満からご報告いたし ます。「『あだち脳活ラボ』の利用状況お よび新たな取組について」です。

項番1なのですけれども、令和7年6 月末時点の情報を記載させていただきま した。まず、あだち脳活ラボの登録状況 (実人数)につきましては、今年度目標 3,500人のところ、3,159人、達 成率90.3%となっております。

グラフ1に年齢別内訳を記載しておりますが、赤色の点線で囲みがされております65歳以上の方につきましては、約2,000人近くの方にご利用いただいているところでございます。

その横のグラフ2の性別の内訳につきましては、やはり女性が多いのですけれども、3割近くの男性にもご参加いただいていますので、従来の介護予防事業の男女比参加状況を見ますと、やはりこういったスマートフォンを使った取組について、男性にもご参加いただけるのかなと実感しております。

その下の(2) J-MCI(もの忘れチェック)の利用状況につきましては、今年度目標2,000人の利用を目標としていたところ、現在1,586人、達成率現状79.3%でございます。

グラフ3の年齢別内訳、同じく赤色の 点線の部分、65歳以上の方には1,2 05人ということで、7割強の方にご利 用いただいております。

右側の3段階評価の内訳につきましては、このもの忘れチェックを行ったときに一番上から「ゆうゆう」「グレーゾーン」「もうちょっと」、この3段階で評価が出るのですが、この「もうちょっと」といいあるかもしれないという50歳以上の方にはあだちオレンジチェックという認知症検診のご案内もLINEのからについては、現状、今2名のおいるでは、現状、今2名の方が認知症検診にお申し込みをされたと報告を受けております。

続きまして、裏面を御覧ください。(3)動画配信の視聴者数です。今年度の目標1,000人のところ、918人の方にご利用いただきました。ジャンル別で見ますと、やはり運動系が視聴の内容としては多い傾向にございます。グラフ6につきましては、総視聴回数の推移で、毎月、月を追うごとに増えていっている状況でございます。

続きまして、項番 2「『あだち脳活ラボ』を活用した新たな取組について」ご報告いたします。こちら脳活ラボのコンテンツを使えば使うほどポイントがたまるのですけれども。このポイントが取得できる二次元コードを協力施設に常設で設置し、高齢者の通いの場として外出・運動・社会参加の習慣化を後押しすることを目的に、新たな取組を開始いたします。

こちらのポスターとポップを作りまして、ご協力いただいている施設様にこちら飾らせていただいて、窓口と受付に二次元コードを印字したポップを置かせていただきます。脳活ラボに登録いただいた方が、ここの二次元コードを読み取る

だけで、20ポイント、プレゼントするような仕組みになっています。1日1回です。ただ、各施設1回なので、例えばまた違うところに行ったら20ポイントとつくのですけれども。ポイントを楽しみに利用されている方も非常に多いので、これをきっかけにお家から出て、外出、歩く習慣を持っていただきたいなと思って、この企画を考えております。

(2)協力施設なのですけれども、地域 学習センター14か所、住区センター5 1か所、あとは区内の浴場施設にもご協 力いただきまして23か所、8月の上旬 から設置開始する予定です。

取得ポイントについては、先ほどお伝えしたとおり、20ポイントなのですけれども、この取得したポイントはQUOカードペイが当たる脳活ラボのガラガラ抽選であったり、プロフィール画像に登録されたご自身のキャラクターのカスタマイズに活用することが可能です。

私からの説明は、以上です。

○酒井部会長 ありがとうございます。

今の報告を受けまして、皆さん、ご意見 を頂ければと思います。

総視聴回数が非常に増えてきていて、 頭打ちになっていないというのが非常に うれしい報告であったかなと思います。

グラフの見方を確認したいのですけれども、グラフ4、3段階評価内訳というのが表の下の右側にあるのですけれども。「ゆうゆう」とありまして、その後「グレーゾーン」とあって「もうちょっと」というのがあるのですけれども。「もうちょっと」と「グレーゾーン」ではどちらが段階的にもの忘れ度が大きいという理解なのですか。

○神家満係長 「もうちょっと」がもの 忘れの疑いが強いことになります。

○酒井部会長 「グレーゾーン」とあわせて注意していきましょうという部分と。 ○神家満係長 「グレーゾーン」となりますと、日によって「ゆうゆう」に入ったりとか、その人の体調によって少しバラッキが出ますので、ここではすぐに認知症検診のご案内ということはしないのですけれども。「もうちょっと」の方については、地域包括支援センターにご相談できますよとか、そういったご案内もあわせて送っておりますので。

○酒井部会長 それから、ポイントをためる施設が増えるというのは、非常によいと思います。それから、区内の浴場施設もこれからの協力、スタートということですから、また増やしていけるいいきっかけになるのかなと考えます。

脳活ラボに関してはよろしいですか。 〇佐藤委員 このもの忘れチェックの利 用状況というのは延べ人数ですか。

- ○神家満係長 実人数です。
- ○佐藤委員 リピートしている人も。

- ○神家満係長 1にカウントしています。○佐藤委員 リピートしたら2じゃなくて。
- ○神家満係長 最新のものをここで反映 しています。
- ○佐藤委員 最新。
- ○神家満係長 2回やった場合、2回目 がこちらに反映するようにしています。
- ○佐藤委員 延べではなくて。
- ○神家満係長 延べではないです。
- ○佐藤委員 延べではない。
- ○神家満係長 実人数です。
- ○佐藤委員 繰り返しやっている人と、 1回目でやっている人のデータみたいな のあるのですか。
- ○神家満係長 データはあるのですけれ ども、この場ですぐにはちょっと。
- ○佐藤委員 今知りたいというよりも、 要は定期的にもの忘れチェックとかは、 やらないと脳活ラボをしている意味がな いから、そこの部分で、例えばイベント とかでこれインストールしてやってくだ さいと言うだけだと、それで1回、終わ ってしまうと思うので、もの忘れチェッ クとかは、定期的にやっているかどうか というのも促すようにしたほうがいいか なということと、あと視聴に関しても、 ただちょこっと流れるよりも、例えば筋 トレとかやりながら見るのであれば、多 分繰り返し見ていると思うので、その層 を使っているということは実際、分かる と思うのですけれども、一回だけだと、 ただのぞいているだけで終わっている可 能性があるので、そこら辺も含めて追っ ていただいたほうがいいのかなと思いま した。
- ○神家満係長 ありがとうございます。
- ○酒井部会長 このあたりどうですか。

○神家満係長 もの忘れチェックの定期 的な促しというのは、こちらからプッシュ配信ができますので、少し利用がされていない方に対してのアプローチというのはできると思います。

動画も、確かに1回見た人と、10回、20回見た人を同じカウントでいいのかなというのは、もちろんありますので、今後、蓄積するデータを見ながら、利用頻度をどういう頻度で見ている方を、視聴しているかという定義も今後、詰めていかなければならないなと思います。

- ○佐藤委員 それこそもの忘れチェック を何回もすれば20ポイントとはいわず、 5ポイントとかすれば、確かにやるかも しれない。
- ○神家満係長 もの忘れチェックもポイント化するということですね。

現状もの忘れチェックはポイントつけていないのですけれども、確かに利用を促すという意味では、それもありかもしれないです。

- ○酒井部会長 そこにポイントをつける 意味はありますね。
- ○神家満係長 利用を促すという意味で は確かにそうです。
- ○廣島委員 動画の回数、増えてはいるのですけれども、登録人数から考えるとあまり回数が、期待しているよりはいっていないのかなと思うので。また数か月とか見ながらだとは思うのですけれども。現状では、少ないという印象ですか。
- ○神家満係長 我々の中では、想定よりは見てくださっているなと。新しくこういうスマートフォンを使った事業を初めて振り切ったので、もう少し抵抗感を、周知の面ですとか、もっと必要かなと思っていたのですけれども、口コミでご協

力いただいたりとか。先日もシルバーさんのプレ体験にご参加いただいた方が、ほかの会員さんにご案内していただいているという、そういう地域の広がりというところも、我々の思っていた以上に広がりを見せているかなと思っています。

ただ、十分ではないと思っていますの で。

- ○廣島委員 通所でいらっしゃる方とかは、なかなか外への外出の機会が少なかったりとかというのはあると思うのですけれども。例えばパンフレットとか何か PDFか何かで頂いて、配布とかすると、登録ということでいくと少し底上げになるかなとは感じたのですけれども。
- ○神家満係長 そこはぜひ。
- ○廣島委員 利用されるか、ちょっとあれですけれども。
- ○神家満係長 もちろんです。
- ○廣島委員 ただ、通所部会、確かに会員利用者が60、70人ぐらいでしたっけ。たしかそれぐらいあって、ざっくりいくと1,000人以上は、多分利用者というのはいるとは思うので、そこに対して、何かしら宣伝かけて、10%でもあればいいのかなって。
- 〇神家満係長 ぜひ、そこは、廣島委員 から。
- ○廣島委員 PDFか何か頂ければ。
- ○神家満係長 現物、今、うれしいこと に在庫不足になっている状況で、8月の 頭に納品される予定なのですけれども、 用意ができましたらご相談させてください。
- ○廣島委員 もちろんです。
- ○神家満係長 実は6月の地域包括ケア システム推進会議のとき、終わった後に 訪問看護の羽田委員からお声がけいただ

きまして、部会の中で配るから100部 ほど欲しいということで、その場でお渡 しして配ったりもしています。

もしご協力いただけるところがあれば。 〇内山委員 これのことですか。

- ○神家満係長 そうです。ご協力いただけるところがございましたら、ぜひぜひお声がけいただければと思います。
- ○廣島委員 なかなか難しいのが、各事業所に渡しに行くというのが、難しいので。できればデータのほうが、速さでいくすぐにメールで流せるので。
- ○神家満係長 それであれば今日にでも 送れますので。
- ○廣島委員 じゃ送ります。
- ○神家満係長 ありがとうございます。
- ○内山委員 今の動画の話なのですけれ ども。長いのでなかなかスマホで見てい るというのができないのです。ちょっと 見て、僕は途中で止めてしまうのが何度 もあったのですけれども。長いから家で ゆっくり見るのならいいのですけれども。 スマホってやっぱり携帯なので、家に置 いてずっと見るということはあまりない のです。

人によると思うのですけど、私なんかは、全く家でじっと見ることはないので、外で動きながらやるというのが、使い道です。人によって違うと思うのですけれども。それだと、見られないのです。あとは、つながるまでに、すぐにパッと入るのと入らないのとあるので、入らないなともう止めてしまうとかというのがあるのです。

その辺、今いろいろどんどん変えられていると聞いていますけれども。動画を増やすのだったら、もう少し工夫が必要かな、時間的な面とか。

○神家満係長 そうですね。

まず、動画の時間でいいますと、現在は、3つの動画をパッケージで、30分から40分程度の動画を週に2回、更新して皆様に直接お送りしているのですけれども。

ゆくゆくは改修して、それをバラにした状態で、何が何分くらいかかる動画なのかというのも、再生する前に分かるようにして、選べるように。3分ぐらいだったら今、見てしまおうかなとか、これ10分だったら後にしようとか、そういうのを選べるようなメニューも作りたいなと思っています。

あとは皆さん、いろいろな動画の利用、シチュエーションがあると思うのですけれども。我々でも、管理画面を見させていただくと、毎朝、午前2時とかにやっている方ですとか、この人はこれが生活のリズムなんだなとか、そういう時間帯に介護予防事業って絶対、我々では展開できないので、そういういろいろな方のニーズにスポッと入れているところもあるのだなと思ったので、ぜひいろいるな方に使っていただきたいと思います。

○酒井部会長 非常に貴重なご意見で、動画の長さって、視聴しようとするときには大きなハードルです。 You Tube動画を見ても、大体10分過ぎると見たくない人がいますから、やはり忙しい中で、せっかくアクセスして30分だと途中で挫折する可能性が高いので、そういった意味では工夫していけるものが見えたということで、お願いしたいと思います。

次に行ってみたいと思います。また、 最後にご意見などは受けたいと思います。 それでは、次第の3報告事項に入りま して「令和7年度『高齢者栄養施策推進 事業』の取組について」を事務局からご 報告お願いしたいと思います。

○千ヶ崎係長 高齢者栄養施策推進担当 の管理栄養士の千ヶ崎と申します。よろ しくお願いします。

私からは、「令和7年度『高齢者栄養施 策推進事業』の取組について」ご報告を させていただきます。

栄養施策は、大きく2つぱく増し事業と食べてフレイル予防事業というのがございます。両方とも、たんぱく質をしっかり摂取することがフレイル予防につながることを啓発する事業になっております。

まず、ぱく増し事業についてなのですけれども、(1)今年度、広報で年3回、ぱく増しのコラムを掲載できることになりました。1回目は8月25日号で、夏場は食欲が落ちて、体重が減ったりする時期なので、夏場でも食べやすいレシピとか、夏は体重減に注意しましょうととを促すコラムになっております。あわせて、1月25日号は、2月がぱく増し月間ということで、また特集号の予定をしておるところです。

(2)として、今、LINEとかAメールで簡単レシピということで、ベジタベのレシピとかおいしい給食レシピは定期的に配信をしているのですけれども。ぜび登録をいただけるとありがたいですが、今度、LINE等でぱく増しレシピも配信をしていこうかなと考えております。あわせて、あだち脳活ラボでもレシピをプッシュ型で配信をして、これは動画ではなくて、年齢と、クックパッドに飛んでつくり方が分かるというものなのです

が、そちらも配信をしていこうかなと考えています。

(3) が2月のぱく増し月間なのですが、昨年まではアンケートに答えるとプレゼントがもらえるという企画を2年間、 やっておったのですけれども。

今年度は、例えば区民の方の「ぱく増し」の工夫を紹介してもらうとかということで、より実践につながる企画を考えていけたらと思っております。

また、スーパー、コンビニ、食品メーカー等とコラボして、簡単で安価なレシピとかの情報発信も今年は進めていきたいと考えています。

2つ目が食べてフレイル予防事業です。 先ほどから、何回か議題に上がっていま した住区センターでのぱく増し栄養講座、 こちらも調理実践を交えたぱく増し講座 を、令和5年度から実施しております。 昨年は69回実施して、今年度は10回 増えて、79回実施予定です。

また、「リハビリのプロと学ぶ筋肉維持講座」についても、去年から始めていまして、去年は6回、今年度は10回ということで、先ほど山ノ内委員からもご提案いただきまして、来年度はもう少し回数を増やして、栄養と運動、両方やることでフレイル予防になりますよということを伝えていければと思っております。

また、これも山ノ内委員のご協力の賜物なのですけれども、てぬぐい体操については、あだちPOSネットワーク様にご監修いただきまして、昨年考案して、昨年度はリーフレットを作成しました。今年度は動画を作成しようと考えております。来週、POSの方にもご協力いただいて、動画を撮影する予定になっています。先ほどから話に出ている動画時間

については、10分以内でスマホで見られるようなところも配慮しながら進めていきたいと思っています。

同じく、動画 d e あだち、S N S、脳活 ラボでも発信をしていきたいと考えてい ます。

あわせて、もう一つ個別支援というのも行っています。栄養士が低栄養のリスクのある方に、訪問して問診を行っておりまして、今年度は135人が対象で、5月から訪問しながら食事のアドバイスとか、握力を測ったりとか、そんなことを進めております。

裏面に行きまして、「今後の方針」です。 先ほどの話と重なるのですが、ぱく増し 月間につきましては、今までは認知を 上げる、取りあえずぱく増しを知ってり らう取組だったのですが、今年度はすり ランク上げて、ぱく増しの実践を促すすい 組にしていきたいと考えています。安価に たんぱく質がしっかり摂れるというとこったが たんぱく質がしっかり摂れるというとこったが たんぱく質がしっかり摂れるというとこったが こ紹介していきたいと考えています。

ぱく増しとてぬぐい体操をあわせて行うことで、運動と栄養の相乗効果を図って、さらなるフレイル予防を取り組んでいきたいなと考えております。

以上になります。

○酒井部会長 私からお聞きしたい部分がありまして、今の「今後の方針」のところで、認知度を上げる取組から実践を促す取組みに変更するということなのですが、実践を促す取組というのは、どういうような取組ですか。

○千ヶ崎係長 実践を促すというのは、今、やっている区民の方のぱく増しの工夫をアンケートに「私、こんなことやっ

ています」と書いていただき、ホームページとかで、区民の方の「ぱく増し、こんなことやってます」みたいにご紹介できるといいなと考えております。

○酒井部会長 ありがとうございます。 今のご説明を受けてご意見を頂ければと 思います。

私から、ちょっとズレるのですけれども、足立区の施設にいろいろなキッチン、ぱく増しのものとかべジタべでもいいのですけれども、そういうものを提供するキッチンのある場所ってあるのですか。

○千ヶ崎係長 少ないと聞いています。

○酒井部会長 私、知っているのはギャ ラクシティの中にとんがりキッチンって、 ピラミッドみたいな形のキッチンがあっ て、あそこの利用が少なくて、今、困って いる。今、課題になっている部分なので す。非常に日が当たって、暑くなる部分 ですけれども、当然、クーラーもありま すし、ちゃんとしたキッチンであそこが 使われていないのが非常に悩ましい部分 なのですが、このぱく増し事業とかで、 あそこで例えば実際にこういうぱく増し の工夫みたいなものを、全てそろってい ますから、そういうところでちゃんとし た作る資格を持っている方、栄養士の方 とか、やっていただけると本当に写真や 動画にも撮れますし、実際に試食もして いただけるかと思いますし。そういうの を使いながら、単なる情報だけではなく、 見る体験、聞く体験、匂いの体験も含め てそういうものができるぱく増し事業も あってもいいのかなと思いますので、そ ういった点も実践という意味で検討して いただければと思いました。

○千ヶ崎係長 ありがとうございます。実は今年度も何回かモデル的に調理実習

をして、その後食べて交流するみたいな、 調理実習型のぱく増し講座をやる予定で、 まだ準備段階だったのでここには書けな かったのですけれども、考えています。

実演で見てもらうのはいいのですけれども、実際に自分で作って、こんな簡単なのだというところと、みんなで食べて交流できるというのは、すごく貴重な場だと思いますので、そんなことも次のステップとしては考えていければと思っています。

ご提案、ありがとうございます。

○酒井部会長 もう一つ、会場が都度変わるというのは、宣伝効果といったらいいか、人を次呼ぶときの障害になりますから、やはり1か所で、そこでやるとなると、みんなも口伝えで宣伝していってもらえますから、そういった意味で拠点を作って、そこでぱく増しの実演があるという形で行けるといいようには思います。

ほかいかがでしょうか。ぱく増しに関して。

○内山委員 ぱく増しという、たんぱく 質なのですけれども、私、こういう絵を 見ていてもこういうのしか食べていない のです。あまりお菓子って食べないので。

それで、どうやってもっと増やすのかなと考えてしまうほうなのです。たんぱく質ってこれだというのが分からないというか、平均的に食べればいいということなのだと思うのですけれども。逆に、摂っていない人が何を食べているのか分からないです、自分で。

○千ヶ崎係長 結構いらっしゃるのです。1日2食だったりとか、この時期だとそうめんだけとか、簡単に済ませてしまう方とかは、そこに、サラダチキンでも載

せたらとか、温泉卵でも載っけたらとか、 そんなちょっとしたことで、たんぱく質 が摂れますよというアドバイスは、させ てもらっています。

あと講座の中では、目安量、手ばかりといって、手の上で載っける、大体卵1個、豆腐1個、肉・魚、これぐらいですよと、ざっくりとした目安量というのをお伝えして言うようにしています。

○内山委員 今のを聞いて分かったのも あるのですけれども。例えば、夏場なん か、それこそそうめんだけとかあるかも しれません。そういうときに、特化して 何か言うともっと分かりやすいかなと、 今、思いました。

確かに、私もおそうめんだけで、あとちょこちょこと食べます。天ぷらを載っけたりじゃなくて何かあるかもしれませんけれども、何かそういうときにもこうですよみたいなのがあると分かりやすいかなと思います。

- ○千ヶ崎係長 8月25日号が、広報の 特集号なのですけれども、原稿が間に合 えば。
- ○神家満係長 脳活ラボでも流します。 ○千ヶ崎係長 そうですね。脳活ラボの 方へ。単品で済ましてしまう方というの が本当に多いです。あとは食欲がなくて 食べないという方もいらっしゃるので、 本当にしっかり食べられている方となかなかない方と同じ65歳以上で も、いろいろな方がいらっしゃるとは思 うので、その人に合ったぱく増しをご紹 介していけたらと。
- ○内山委員 今、途中で2食しか食べていない人がいるとかね。1食しか食べていない人というのもいるのです。実際に、3食、食べたほうがいいというのは分か

るのですけれども、もともと3食食べていなかったということですよね。そこから3食、食べさせるようにしたという歴史があるじゃないですか。そんなので、なぜ3食がいいのかというのも、私は分かっていないのですけれども。

- ○千ヶ崎係長 夜、寝ている間に、糖質 とかは使われてしまっているので、午前 中のエネルギーには朝、しっかり食べる ことがすごく大事にはなります。
- 〇内山委員 朝。
- ○千ヶ崎係長 若い世代から、朝食を抜いて、そのままずっと過ごしてしまう方もいるので、3食しっかり食べるというのは、もっともっと遡って、若いところからきちんと伝えて、何で大切なのというところも含めて伝えていけるといいのだと。それこそ連携じゃないですけれども。衛生部とも連携しながら、できればと思います。
- ○酒井部会長 ほかご意見いかがですか。 ○廣島委員 ぱく増しのところで、レシ ピの配信というのがあって、箇条書きか 何かで、こういう感じ。
- ○千ヶ崎係長 見たことありますか。
- ○廣島委員 ないのですけれども。個人 的な意見なのですけれども、私も料理が 好きで、レシピだと作らなくて、動画だ と結構作る。一緒に作っている感じで。 なので、例えば脳活ラボにそれこそ。
- ○千ヶ崎係長 脳活ラボ、動画がいいで すよね。
- ○廣島委員 料理の動画とかがあると、 見る方もいるのかなというのが率直な意 見です。
- ○神家満係長 ホームページでは、動画 になっていないのでしたっけ。
- ○千ヶ崎係長 ベジタベが一部、10個

ぐらい動画を作って、ホームページにアップしているはあるのですけれども。編集作業とか大変なので、あまりクオリティを求めない動画であれば、上げられるし、確かにそのほうが分かりやすい。普段料理をしない方はもしかしたらそのほうがいいし。

○廣島委員 動画で包丁の切り方とかも 覚えたので。

○酒井部会長 私も結構YouTubeを見て、レシピなんかは見ないのが、作っている様子のYouTubeを結構見るのですけれども、そうすると自分も作ってみようかなと。そういった意味では、本当に数分の動画でいいと思うのです。長くしようと思うと、見ないし。短いのをいっぱい単発で飛ばしてもいいのかなと思います。

○千ヶ崎係長 今LINEで流すと、作り方がすごい量になってしまうので、多分、なかなかあれは見る人、見づらいかと。

- ○酒井部会長 LINE動画。
- ○廣島委員 脳活ラボ、動画のところに あると何かいいかな。
- ○千ヶ崎係長 いろいろ提案を頂きました。

○神家満係長 ただ、やはりあだち脳活 ラボなので、足立の特色は出したいなと 考えています。数ある動画コンテンツの中で、それを無限に増やすことは経費的なコストの部分で、難しいのですが、今、すごく好評を頂いているてぬぐい体操の動画をせっかく作るので、それを脳活ラボの一つのコンテンツに、配信ではなく、足立区オリジナル動画ボックスみたいな箱を作って、そこにてぬぐい体操とか、そういう動画を幾つか格納できないかと

いう検討もしています。技術的にはできると思うのですけれども、いろいろ調整は必要になりますので。そこで料理のメニューもというのですけれども。料理のメニューを考えると、多分2、3個では済まないと思うので、じゃどういう掲載の仕方がいいのかというのは、ぜひ考えたいです。

動画は、確かに文字よりも力があると 思いますので。

○千ヶ崎係長 楽しいですよね、きっと、 見ていて。

○内山委員 すごいいい意見を言ってい ただいてありがとうございます。シルバ ーで「いちょうぴあ」というのをやって いて、月1の広報誌なのですけれども。 そこに必ず料理のコーナーがあるのです。 それを作って、材料何とかって料理の方 法とあるのですけれども。それを何かし らないけれども、動画じゃないけど、や ると、シルバーメンバーも見るような気 がします。今、読んでいるのですけれど も、やっぱり動画がいいという。それで したら、実際にその動画。逆に、シルバー の中でも考えてもいいのかもしれません けれども。そういう中に、配信方法、我々 ないので、何とか動画を配信していただ くようなのがあれば、見る人が多くなる かなと思います。

○小浦委員 動画配信に関しては、千住にある福祉系の大学の、よく千住のホウカツのケアネットとか、講師で来てくださる先生がいらっしゃって、そこのゼミ生さんが高齢者向けのレシピ動画の作成をされています。いろいろなところでいろな人が同じような動画をわざわざ作るよりは、せっかく区内の取組なので、協働とかしてもらって、活用し合ってみ

るといいのじゃないかなと。

- ○千ヶ崎係長 誰でも見られるのですか。 帝京科学大学のことですか。
- ○小浦委員 そうです。
- ○酒井部会長 リンクすればいいですも のね。
- ○小浦委員 学生さんもすごくやりがい になると思うし。
- ○千ヶ崎係長 福祉系の大学だし。
- ○酒井部会長 地域連携が。
- ○千ヶ崎係長 確認してみます。ありが とうございます。
- 〇山ノ内委員 逆に、料理しない人、男性、圧倒的に多いと思うので、そういう人たちがたんぱく質を摂る手軽なものって、これを例えばつまみとか、そういうのもあると。料理好きな人の割合と考えたら、多分しない人間がかなり多いと思うので。
- ○千ヶ崎係長 すごく課題なところなの で。

○山ノ内委員 自分でやかないす。 自分でいないのです。 当に1日60グラム摂ってかとどでいるかとどでも担ってするとです。 当に1日60グラム摂っですければです。 は、1週間やってかながでです。ときがでいるというです。 でも摂っていないでであるで、こならのでいんいうがあるで、ですりからので、からのですがらので、からのですがある。 構。「ぱく増し」をやりながらの意外いなはと増しのでですがあるとがいるがあるとといいが表し、 ののときに、先ほどれったようにいいかなと思うのです。

そこでまた改めて調理とかというより は、手軽に摂れるものとか。

そうすると、特に男性陣はそういうの は参考になるかなと思うのです。

- ○千ヶ崎係長 本当に豆腐とか納豆とか 卵でもいいですし、例えばコンビニとか で、今、豆腐のバーとかも売っていたり とか。
- 〇山ノ内委員 コンビニで太めのソーセ ージとかありますけれども。
- ○千ヶ崎係長 そうですね。そういうのでもいいんですよみたいな。今度月間ではコンビニさんとも連携したいなと思っているので、コンビニに入ってちょっとぱく増しのような啓発ができたりとか。 ○山ノ内委員 手軽に手に入るたんぱく質みたいな。
- ○千ヶ崎係長 スーパーに行かなくても、 コンビニでちょっと足せばいいとかそう いうことですね。

すごいいっぱい意見をいただいて。

○酒井部会長 有意義な情報なり意見が 様々出ましたので、うまく生かしていっ ていただければと思います。

それでは、本日の最後の報告事項に入ります。「生活支援体制整備事業の取組 状況について」、堀委員から報告をお願いしたいと思います。

○堀委員 それでは、報告事項3の資料 を御覧くださいませ。生活支援体制整備 事業の取組状況についてご報告をさせて いただきます。

まず、1ページ目でございますけれど も、生活支援体制整備事業、主に介護予 防と身近な生活空間の中での生活支援、 助け合いのようなことです。そういった 活動を応援していこうということで、整 備されております。

ホウカツの圏域を第二層と呼び、区の レベルを第一層と呼んで、包括支援セン ターに地域支え合い推進員という職員を 役割配置いたしまして、事業に取り組ん でいます。

取り組むに当たっては、包括支援センターごとに開催されるあんしん連絡会で協議しながら事業に取り組んでいくというプロセスになっております。なお、このあんしん連絡会を第二層協議体と呼び習わして取り組んでいるところでございます。

ということで、基幹地域包括支援センターは、足立区域の第一層のところに位置づくものとして、私どものセンターでは第一層支え合い推進員ということで、包括支援センターの取組をバックアップするという位置づけでございます。

3ページ目に移りますけれども、各包 括支援センターの推進員の業務内容とい うのが、委託契約の中に入っている項目 でございます。全部で7つございまして、 地域資源の把握、自主グループの創出・ 継続支援、3番目が担い手となる人材へ の活動の場の案内。これは、今日お話の 中で出ている元気アップ教室ですとか、 各種の区の事業へのつなぎ・紹介という ことを含む形でございます。

4番がそれと連動するのですけれども、 それぞれの方のニーズに応じた参加の場 ですとか、それからサービスといったも のを案内していくという業務でございま す。

5番目に、冒頭で申し上げました第二 層協議体・絆のあんしんネットワーク連 絡会を開催し、その場で6番、地域課題 の検討を行いながら、資源創出に取り組 んでいくということでございます。

最後に7番目で、ブロック単位、全部 で25のホウカツありますけれども、そ れを区内5つのブロックに割っておりますので、そのブロック単位でホウカツ同士が情報交換をしながら事業の実効性を高めていこうということで取り組んでおります。

次のページが、昨年度から今年度にかけておよそどんなことに検討して取り組んでいるかということの見取り図でございます。

一番左側に、一層と二層と区分けして ございます。実はこのはつらつ高齢者部 会は、第一層協議体に位置づけられてお りますので、この会議体を目指して、各 包括支援センター、二層の協議体と検討 を積み重ねながら、日々取り組んでいる という会議体の構成になっております。

令和6年度は地域課題の抽出としてい ろいろと検討してまいりましたけれども、 担い手の不足ですとか、活動場所の不足 ということが、これは長年そうなのです が、特に指摘されたということになって おります。

その中で、今、区レベルにおいては、本 日も協議事項の中にございました元気ア ップ教室の見直し等について検討してい ただいているということでございます。

あわせて、活動場所の不足、それからもう一つ出てきたのは共食の場の支援というテーマなのですけれども、こういったことについても、支援策をぜひご検討いただきたいということでご報告をさせていただいたところでございます。

二層でも優先的に取り組むべき地域課題、この3つについて、既に令和6年度内から取組を始めておりまして、特に担い手の不足、場所の不足という2点について、各ホウカツでは一体どんなふうに取り組んでいるのかということの実例を

寄せていただく調査を行って、ヒントを まとめたところでございます。担い手に ついては269事例、場所については1 36事例が集められまして、今現在、担 い手の部分、269事例をまとめて取組 のヒントを、今年度に入りまして職員の 研修などで共有して実践に役立てていた だこうという取組をいたしました。

次のページが、地域課題の抽出の具体的なところでございます。担い手の不足については、やはり元気アップ教室の参加者が少ない。ウォーキングに特化した仕組みに限界を感じるなどの意見が出ておりました。

また、このプログラムをどうにかすればいいということだけで、なかなか太刀打ちできない構造的な問題もありまして、就労期間が今延びています。前の部会でもお話しさせていただいたのですが、元気高齢者が増えました、人口減少社会でで、その気があれば何歳ました、その気があれば何歳まいう中で、その気があれば何歳まいる時代に入ってきている時代に入ってというなか難しくなっている状況であるということが出てきたところです。

また、活動場所の不足については、特にこの区役所周り、梅島駅あたりの周辺、 それから千住のエリアあたりに地域活動 で使える場所というのが少ないのが、エ リアで出てくるとなっています。

なので、そういった空き家、空き店舗 の活用や町会会館などを活動拠点として 利用できるようなことについて、サポー トする制度が少ないのではないかとか、 空き家バンクのようなものがあるとよい という意見が出ておりました。

それから3番目に、共食の場の支援で

ございます。これは、運動習慣、運動を介護予防の入り口にすること多いのですけれども、そして欠かせないものなわけなのですが、運動習慣が全くない人もいるから、共食の場を復活したいとか、それから栄養面と閉じこもり、孤立というところの課題にわたって、共食の場が必要だと思っているというような意見が出ていたところでございました。

次のページに移りまして、昨年度から 行いました担い手の発掘に関する取組に ついて269事例を整理した10のヒン トを抽出いたしました。

これについては、次のページ、包括支援センターの研修の中で共有をしたところでございます。評価としては、とても生かせる・生かせるを合わせて100%になりまして、こうやって項目だけ10個並べてみても、何のことやらということだと思いますけれども。この中で寄せられた事例を共有しながら包括支援センターの中で、勉強を行ったというところでございます。

また、隣の北区とかそれから遠くは立 川市のあたりまで、この取組に賛同して いたほかの4自治体の推進員も招いて、

一緒に勉強するという機会を行いました。

令和7年度の、今年度一層ではどんな 取組をしているかというところについて、 列記したもの、一覧にしたものも掲載さ せていただきました。協議の場は、委託 事項をそのままという感じで、記載しているとおりの会議体がございます。それ から、包括支援のところでは、職員で終 や相談会というものを行っています。 れは、包括支援センター単位で私どもの 基幹センターと企画会議を行うという相 談会を開いておりまして、右側の写真は その様子です。右側にエリアホウカツの 職員さん4人、来所いただいて、左側に 基幹事業化支援センターのブロック担当 の職員ということで、10枠で昨年度始 めた事業でございます。

それから、資源開発の部分では、通いの場の交流会の開催のほか、今年度は共食の場づくり情報交換会という、一緒に作って食べる会の活動をもっと広げていけないかということで、情報交換会を開催しようということにしております。

長くなって恐縮です。一番最後です。 生活支援の取組ということも、生活支援 体制整備事業では、介護予防とあわせて もう一つ大きなトピックになっていまし て、身近な地域での支え合いという活動 を広げていこうということで、幾つかの 事例が出てきております。

例えば、特技を生かした生活支援ということで、男性の方が協力員なのですけれども、傘を直してあげたりとか、簡単なエアコンの掃除みたいなことをしてあげたりという活動を社会福祉協議会の有償家事援助の仕組みと連動させながら、包括支援センターで取り組んだという事例がございます。

それから、送迎支援です。実際に要介 護となりますと、通所介護とかデイるの 世スなどの利用ということもでる場所というの まれるとの 手前の方の集まれるカフマ いう事業をで、足立区では認知で行っている いう事業をホウカツエリアでるという 事業をおうことが実際についうりま が、そこら辺の部分を送迎についりま してくれる住民の方と一緒に取り おしてくれる でいこうというな、送迎支援の も行われています。

また、最後に食料支援、買い物支援と いうことで、高齢者の独居世帯の方が多 いですか。一時的に食料困難に陥ること があります。これは、若い人の食料困難 は別の問題でございまして、子育て世代、 シングル世帯とかで食料支援が必要な場 合というのは、ずっとその後ある一定の ところまで長い支援が必要なのですけれ ども。高齢者一人暮らしの場合は、例え ば、生活保護につながるべきだったけれ ども、ちょうどそこの、退職してお金が なくなったみたいなところから、年金が うまくコントロールできなくて、一時的 に支援が必要とかですね。あるいは、年 金ももらっているのだけれども、本人に 認知症状が出てしまったために、これま たどこにどういうふうに保管しているか 分からない。今、手元には食べ物がない みたいなことで、一時的に必要な状況と いうのが出てきます。そういったことを 地域ケア会議などで、相談しながらみん なで食材を集めてみよという取組を包括 支援センターも参加して行ったりという 取組が出てきております。

この辺は、各ホウカツの地域事情と課題の検討に合わせて行われるものなので、一律にこれをやってくださいというものではないのですが、こういった自主的な活動というものも、基幹センターとしてはぜひ今年度も力を入れて応援していきたいと考えているところでございます。

ということで、以上、報告させていた だきました。

○酒井部会長 ありがとうございます。 実践、取組から抽出されたものなので、 非常に分かりやすくかつ課題がよく見え たと思います。

第一層、第二層の説明もありまして、

このはつらつ高齢者支援部会の今日の審 議ともオーパーラップしてくるというの もよく分かったなというところでした。

今のご報告についてご質問、ご意見等 ございましたら、お願いしたいと思いま _す

かなり詳細な報告で、すごくぐっとく るような内容が多くて、現場で悩まれて いる姿が見えるし、この部会で何やって いかなくてはいけないのかというのも見 えてくる部分なのかなと思いますので、 この部会で検討していければと思います。 ○堀委員 1つ足させていただいてもよ ろしいですか。地域課題として一番の担 い手不足というのがあるかと思いますが、 これは地域活動で100%満たされてい る方をリクルートしようというのは、今 の時代に合わない気がしておりますので。 これは介護の事業者の方々ですとか、そ れからシルバー人材センターに登録され ている方々と連携をしながら、お互いつ ながりながら地域づくりをしていくのか なと考えているのです。なので、この元 気アップの参加者を増やすためにという、 単にそういうことではなしに、今日、参 加されている委員の皆様の足元の活動と 結びついていくという方策をこれからぜ ひご相談させていただきたいと思ってお ります。

○酒井部会長 ありがとうございます。 ぐっときて言葉が出ないという感じでは あるのですけれども。

○山ノ内委員 今のお話を聞いてですけれども、担い手の考えている年齢層というのは、それによってかなり違うのかなと思いうのですけれども。

ただ、この前シルバー人材センターと ちょっとお話ししたときに、シルバー人 材センター自体が年齢層がどんどん上がっている話を聞いて、昔は60台が中心だったのが、今、70台後半が主だという。

この担い手を考えるときに、どこの年 代を担い手にというところのイメージが ないと、具体的に話を進めるときに、例 えば元気アップのところにも、多分これ セントラルさんがやっていたりすると思 うのですけれども。対象者をどういうと ころに持っていくのかなって、今さっき 言ったように、結構、その辺が一番難し くなっているような気がします。

実際、上がっているのですか。

○内山委員 平均が78歳とかになっていて、それこそまさにこういう包括ケアシステムに参加されるというのは、シルバーではかなり要るんじゃないかなと思うのです。

先ほど言った担い手、そういう意味では、60台の女性もいますし、そういう方たちがいいのかなと思いますけれども、年齢的には。

いけないというルールがあるのです。邪魔しない形でやるということ。あとはたまたま就業開拓委員会というのがあって、その委員をやっているのですけれども、そういう意味ではお話を伺うというか、そのメンバーと話してもらうというのはいいかなと思います。

実際に我々仕事を取りに行っているのは確かなのです。その中で、堀委員の中での仕事というのもシルバーに回していただくような形というのはありがたいことだと思います。

〇山ノ内委員 適切かどうかは分からないですけれども。例えば、こういう通いの場というところを、仕事として行くのとボランティアとして行くのは全然違うのです。単に担い手というのをボランティアでやってもらうのか、今、おっしゃったように仕事として、もし担い手としてやるのかというと、そこは大きな差かなと思っていて。

ですから、単にこういう、何となくこういう仕事って何かボランティア的イメージがすごく強いのですけれども。これは、就労場所の一つとして、担い手を持っていくというのは、この後どうしても必要な段階になっていくのではないかなと感じているところです。

○内山委員 おっしゃるとおりで、もともとはボランティアという形が一番出ているのです、前面には。ですけれども、現実に会員さんたちは、収入目的というのは絶対にあって、ボランティアだけで入っているという人はまれなのです。

気持ちはボランティアというのはある のですけれども、やっぱり有償ボランティアというのがあって、その辺がシルバ ーの中でも、皆さんが同じ気持ちかとい うと、そうじゃないです。友だちづくりとかいろいろな理由がありますけれども。 やはりそれぞれの方、有償ボランティアということでやっているというのが現実だと思います。

ボランティアはボランティアでほかに あるんです。

- ○山ノ内委員 並行して考えていかない といけないかなとは。
- ○内山委員 そうですね。
- ○酒井部会長 この生活支援体制を考える場合には、担い手を限らない、広げていくという発想でいかざるを得ないと思いますから、有償を目的の方は、当然いてよいし、そういったあたりで、実際、どこまで取り込んでいくかという点を今後の課題にしていければと思うんです。

それでは、今日の報告事項はここまで としまして、ご意見、ほかに本日の協議 事項、報告事項でございますか。今、相当 出たという感じ。

それでは、今後の高齢者部会の日程については、事務局からご説明、ご報告いただければと思います。

○神家満係長 はつらつ高齢者支援係の 神家満からご説明いたします。

次第を御覧ください。次第の項番4番「その他」のところです。今後のはつらつ高齢者部会の日程の案をここでご提示させていただきます。今年度、本日含めて3回の開催を予定しておりまして、次回第2回は、令和7年11月19日(水)、同じく午前10時からを予定しております。

また、その後、第3回につきましては、 令和8年2月9日(月)のこちらは午後 2時からを予定しております。

会場につきましては、いずれも足立区

役所南館12階、同じフロアなのですけれども1204会議室ということで、この隣の会議室になる予定でございます。

日程につきましては、現状の案という ことで、また近くなりましたらご案内を させていただきます。

どうぞよろしくお願いいたします。

○酒井部会長 ありがとうございます。 今日の案件は以上ということになります ので、今日は活発なご意見が出まして、 まだいっぱい出てくるのかなというとこ ろではあるのですが、この部会も今日だ けではなく、事務局にもまた委員様同士 の意見交換を独自に続けていただければ と思います。

それでは、事務局にお返ししたいと思 います。

○富田 酒井部会長、ありがとうございました。委員の皆様におかれましても、 長時間にわたり様々なご意見、ご質問を 頂きましてありがとうございます。

最後に、事務連絡がございます。委員 の皆様で、本日お車でおいでの方につき ましては、お帰りの際に事務局にお申し つけください。駐車券をお渡しいたしま す。

それでは、これにて令和7年度第1回 はつらつ高齢者部会を終了とさせていた だきます。

本日はありがとうございました。